

自由工房

社会教育施設における生涯学習への取り組みの必要性の増大に応じて、自主制作の場として実技室を開放する「自由工房」を、週末の金曜から日曜日に通年開室し、広く県民に創作活動の場を提供した。祝日を加え週3日から4日の開室であった。

■自由工房(通年開室)

参加者の自主制作を基本とするため中学生以上の個人を対象とし、インストラクター来室日には実技上の相談や助言を行った。参加者の活動内容は、実技室が持つ大型の版画プレス機を使った各種の版画、デッサン、水彩画、油彩画、館所蔵の美術ビデオの鑑賞など。期間は、他の講座で実技室を使用する日を除く毎週末の金、土、日曜日と祝日を基本とする。

開室日数=125日

10：15～16：15

講師=内山久子(美術家)

利用者数=1,040名

■ロダン館デッサン会

ロダン彫刻の素描を通してより鑑賞を深めると同時に、新たな創作の場となることを期して「ロダン館デッサン会」を実施した。ロダン彫刻を素描する機会の提供に主眼を置き、参加者同士で行う感想会を、毎回終了時に設けた。技術的指導はなし。

期間=毎月第4金・土曜日(本年度計24回実施)

参加者数=451名

■版画入門

実技室で行われている自由工房の中に、版画入門の日を設けた。基本的な技法、材料の扱い方をインストラクターがわかりやすく説明しながら実演した。本年は、「銅版画入門」の際、収蔵作品を実技室に出してきて、表現の説明をするなど、鑑賞を重視した内容も盛り込んだ。

リトグラフ=2月12日・13日

シルクスクリーン=5月8日・9日

銅版画=11月20日・21日

10：15～16：15

講師=内山久子(美術家)

参加者数(通算)=40名

■春季自由工房イベント

『銅版エンボスで遊ぼう』

期間=3月12日・13日

10：15～16：15

参加者数=9名

場所=当館実技室

講師=大谷かほる氏(自由工房利用者)

春季自由工房(3月11日～21日までの10日間)の期間中、銅版のディープエッチングを利用したエンボス作品制作の講座を開催した。

今回、初めての試みとして自由工房利用者に講師を依頼したが、これは、利用者同士がお互いの制作を紹介する場を設けることがねらいである。

実際に、大谷さんにはご自分の作品を紹介してもらい、参加者は真っ白な紙に凹凸のみで繊細な絵柄が浮き上がるエンボスの魅力を存分に味わうことができた。また、インクを使用しないため、短時間に多くの枚数を刷れるのもエンボスの良いところ。最後は参加者全員の作品を1つにまとめたファイルを人数分作り、記念に持ち帰ってもらうことができた。

後日、まとまった枚数を刷りに来る方も多く、中には友人を連れて来室し、やり方を教えている人もいたなど、意外なほど広がりを見せた企画であった。



<銅版画入門>収蔵作品鑑賞の様子